

道内初！“イワガキ”の種苗生産技術を開発

奥尻島の新たな観光の目玉に

背景

- ・日本海沿岸では、天然資源の減少等により漁業経営が厳しく、栽培技術による特産物の創出を模索。
- ・夏の観光シーズンに旬を迎える「奥尻産イワガキ」の養殖事業化と観光資源としての特産品化が要望。
- ・奥尻島で、夏が旬のイワガキ（マガキの旬は冬）の生息をDNA鑑定により確認（肉眼での識別は困難）。
- ・イワガキの生息北限に近い奥尻島での養殖用種苗の安定生産が必要。

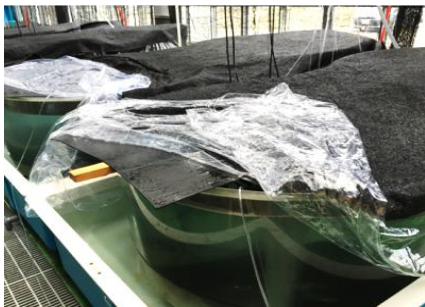


奥尻町室津祭で大好評

（販売サイズ：約200g）

成果

1 幼生育成技術を確立



ヒータ加温された水槽内に設置された幼生飼育用円形水槽

- 温室＋ヒータ加温で熱効率が高い育成技術を確立

2 実用規模の養殖用種苗生産に成功



ホタテ貝殻上に採苗されたイワガキの種苗

- 養殖用種苗生産に成功
- 奥尻町での種苗生産を実現
水試：2万個、奥尻：1.2万個

3 養殖試験に成功



ホタテ貝殻上で成長したイワガキ

- 養殖試験に成功
- 奥尻町の室津祭で試験販売

期待される効果

- イワガキの種苗生産技術の改善と現場普及により、現地で種苗を供給できる体制を構築しました。
- イワガキの養殖事業化により、新たな観光産業の創出に活用されます。